私の中の「東北大学」――――――OBからのメッセージ

地域密着かつ実践的な学問のパワーをもって

入間田 宣夫

近代日本の学問は、中央の高みからする「上から目線」をもって、地方を俯瞰する、というスタンスを基本にしてきました。日本の歴史学も、例外ではありません。外側から十把一絡げに捉えて、東北は貧しいとか、遅れているとか、古来の風俗が残されているとか、虐げられる一方だったとか、と見なすような傾向を免れませんでした。

それに対して、東北の歴史学は、地域に暮らす人びとの心情に寄り添った「下からの目線」「内側からの目線」をもって、具体的に語らなければならない、という姿勢をかたちづくってきました。

たとえば、平泉の文化に関しても、藤原氏歴代の当主を始めとする奥州人の心情に寄り添いながら、公家風の京都文化の模倣には止まらず、武家風の鎌倉文化の先駆けとなる内実をかたちづくる画期的な役割を果たした、その具体的なプロセスを解明しようとしてきました。あわせて、平泉藤原氏の居館兼政庁たるべき柳之御所遺跡が、国家的プロジェクト（北上川堤防工事）によって消滅させられようとする危機に際しては、地域住民と連携しながら、全国的な運動を盛り上げて、遺跡保存に漕ぎ着けることができました。

それらの地域密着の学問的かつ実践的な取り組みがなかったならば、二〇一一年、平泉世界文化遺産の登録に向けたスタート・ラインに立つことは難しかった、と言っても過言ではありません。

この四月には、東北大学災害科学国際研究所が新設されることになりました。それにつけても、文化財の災害からの救出にあわせて、災害史の解明をめざしてきた平川新教授ほかの、同じく自然科学の立場から防災・減災の情報発信をリードしてきた今村文彦教授ほかの、それぞれに地域密着かつ実践的な取り組みに想いをいたすことにならざるをえません。

そうです。東北大学は、中央の高みからする「上から目線」にはあらず。建学の当初から、「東北の眼差し」をもって、日本にそして世界に、情報を発信してきたのでした。それによって、日本の学問をつくりかえ、人類社会に貢献する道筋を模索してきたのでした。

東北は、甚大な災害（地震・津波・原発事故）からの復興をめざして、立ち上がろうとしている矢先です。いま、現在ほどに、東北大学の地域密着かつ実践的なパワーが必要とされているときはありません。後輩諸君のがんばりに、絶大なエールを送ります。

入間田 宣夫（いるまだ のぶお）
1942年生まれ
出身学部／東北大学文学部史学科
現職／東北芸術工科大学大学院教授
東北大学名誉教授

Irumada Nobuo

INFORMATION

2012年度
10月～12月の
ご案内
18:00～19:45

東北大学
サイエンスカフェ・リベラルアーツサロン

参加費
無料
（事前申込は不要です。）

会場／せんだいメディアテーク1F／東北大学附属図書館（川内）
2012年度 10月～12月の東北大学サイエンスカフェ・リベラルアーツサロンのテーマ、講演者をお知らせします。

10月26日（金）サイエンスカフェ第85回
次世代航空機への挑戦
～航空機開発の最前線～
岡部 朋永（東北大学大学院工学研究科 准教授）

11月30日（金）サイエンスカフェ第86回
震災はココロとカラダをどう変えた？
～回復のためにできること～
富田 博秋（東北大学災害科学国際研究所 教授）

12月14日（金）リベラルアーツサロン第19回
会場:東北大学附属図書館（川内）
教育の世紀～日英教育の百年～
宮腰 英一（東北大学大学院教育学研究科・教育学部 教授）

12月18日（火）サイエンスカフェ第87回
南極で夢見る果ての宇宙
市川 隆（東北大学大学院理学研究科 教授）

お問い合わせ｜東北大学総務部広報課 TEL.022-217-4977　ホームページ　http://cafe.tohoku.ac.jp/

未来ある人材を育むために
東北大学基金へのご協力をお願いいたします。
東北大学基金事務局｜〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
022-217-5905 kikin@bureau.tohoku.ac.jp
http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/
東北大学基金｜ 検索